

OPP wrapper S7 / W7 取扱説明書

ver 1

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。ご使用前に必ず「安全上のご注意」をよくお読みいただき正しくお使いください。お読みになったあとは、大切に保管し、必要なときにお読みください。

安全上のご注意 必ずお守りください

この取扱説明書および製品の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々の危害や財産への損害を未然に防止するため、次のように説明しています。

- 誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を、次の区分で説明しています。
 - 警告** (黄色い三角)
 - 注意** (黄色い三角)
- お守りいただく内容は、次の区分で説明しています。
 - 禁止** (赤い斜線)
 - 指示** (青い丸)

警告 「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を示します。

- 分解禁止** (赤い斜線) 改造はしない。また修理技術者以外の人は分解したり修理をしない。火災・感電・けがの原因になります。修理はお買い上げの販売店にご相談ください。
- ぬれて禁止** (赤い斜線) ぬれた手で差し込みプラグの抜き差しをしない。感電・けがのおそれがあります。
- 禁止** (赤い斜線) 交流100V以外では使用しない。(日本国内100V専用) 火災・感電の原因になります。
- 指示** (青い丸) 定格15A以上のコンセントを単独で使用する。他の器具と併用する分岐コンセント部が異常発熱し、発火の原因になります。
- 禁止** (赤い斜線) 電源コードは、破損したまま使用しない。また、電源コードを傷つけない。加工したり、高温部に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたりしない。コードが破損し、火災・感電の原因になります。
- 指示** (青い丸) 差し込みプラグにほこりが付着している場合は、よくふき取る。火災の原因になります。
- 指示** (青い丸) 差し込みプラグは根元まで確実に差し込む。感電・ショート・発煙・発火の原因になります。
- 禁止** (赤い斜線) コードや差し込みプラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。感電・ショート・発火の原因になります。
- ぬれて禁止** (赤い斜線) ぬれた手で差し込みプラグの抜き差しをしない。感電・けがのおそれがあります。
- 禁止** (赤い斜線) 水に浸けたり、水をかけたりしない。ショート・感電の原因になります。
- 指示** (青い丸) 目的以外のものの包装に使用しない。本機は、食品包装を補助する機械です。引火物をはじめ食品以外の包装に使用しない。
- 指示** (青い丸) 異常・故障時は直ちに使用を中止する。そのまま使用すると発煙・発火・感電・けがの原因になります。
 - <異常・故障例>
 - ・フィルムのカットができない。
 - ・電源ランプが点灯しない。点灯してもカッターバーや溶着板、熱板が温まらない。
 - ・電源スイッチON・OFFの切り替えができない。
 - ・温度コントロールをMINIしても熱板の表面温度が下がらない。
 - ・電源コードや差し込みプラグが異常に熱くなる。
 - ・電源コードやヒーターコードに深い傷や変形がある。
 - ・電源コードを動かすと通電したり、しなかったりする。
 - ・焦げくさいにおいがする。
 - ・ビリビリと電気を感じる。
 - ・電源を入れるとブレーカーが落ちる。

このような症状のときは、使用を止めて故障や事故防止のため、必ず販売店に点検をご相談ください。

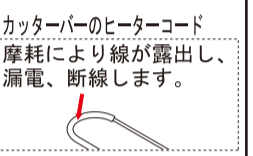
注意 「傷害を負うまたは物理的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を示します。

- 禁止** (赤い斜線) 不安定な場所やすべりやすい場所、火の近く、燃えやすいものの近くなどでは使わない。火災の原因になります。
- 指示** (青い丸) プラグを抜く 使用時以外は、差し込みプラグをコンセントから抜く。けが・やけど・絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。
- 禁止** (赤い斜線) 缶詰や瓶詰めなどを直接加熱しない。缶や瓶が破裂したり、過熱して、やけど・けがのおそれがあります。
- 指示** (青い丸) プラグを抜く 差し込みプラグを抜くときは、コードを持たずに必ず先端の差し込みプラグを持って抜く。感電・ショート・発火の原因になります。
- 禁止** (赤い斜線) 本機に風や冷気が当たらないようにする。フィルムのカット不良や溶着不良の原因になります。
- 指示** (青い丸) 接地 本機は、湿気や水分を避けた場所に置く。必ずアースを取り付ける。感電・ショート・漏電の原因になります。
- 禁止** (赤い斜線) 使用中は、本機から離れない。火災の原因になります。
- 指示** (青い丸) 使用中は、フィルムをカットしたり、溶着したりすると煙やガス、においなどが発生します。換気の良い場所で作業する。
- 禁止** (赤い斜線) 使用中は、フィルムやラベル、容器などを高温部周辺に置かない。形状変化や変色の原因になります。
- 指示** (青い丸) カッターバーや溶着板は、初回通電時または部品交換時にしばらく煙が発生する場合があります。換気の良い場所で作業する。
- 禁止** (赤い斜線) 使用中や使用後は、カッターバーや熱板などの高温部に触れない。やけどのおそれがあります。
- 指示** (青い丸) お手入れは冷めてから行う。高温部に触れ、やけどのおそれがあります。
- 禁止** (赤い斜線) ローラーに砂や土、ほこりなどの付着物が付いたまま使用しない。フィルムやローラーの表面を傷つけます。
- 指示** (青い丸) カッターバーや溶着板、熱板にチリやカスなどが付着したら取り除く。フィルムのカット不良や溶着不良、発煙・発火の原因になります。
- 禁止** (赤い斜線) お手入れする際は、ナイフや包丁など鋭利な刃物や金属物などで本機をこすらない。研磨剤入り洗剤やみがき粉、たわしやスポンジなど本機を傷つける恐れがあるものは使用しない。また、台所用中性洗剤以外のもの(塩素系などのアルカリ性洗剤、酸性洗剤など)、シンナー、ベンジン、漂白剤などは使用しない。

お願い

※熱板・・・OPP WRAPPER W7のみ搭載

- **カッターバーや溶着板、熱板を長持ちさせるために**
 - 使用しないときは、電源をお切りください。電気の節電やヒーターコードの摩耗による劣化が抑えられます。
 - カッターバーや溶着板、熱板のフッ素被膜について、注意事項に記載されたように傷めたりするものでお手入れしないでください。
- **カッターバーや溶着板、熱板の交換時期**
 - カッターバーや溶着板、熱板のフッ素被膜が剥がれていたら交換してください。(フィルムが表面につきカット不良や溶着不良、表面が錆びてくる原因になります。)
 - カッターバーおよび溶着板のヒーターコードが摩耗によって、被膜が破れ始めている。または破れていて線が露出している。使用を止め、すぐに交換してください。(感電・漏電の原因になります。)

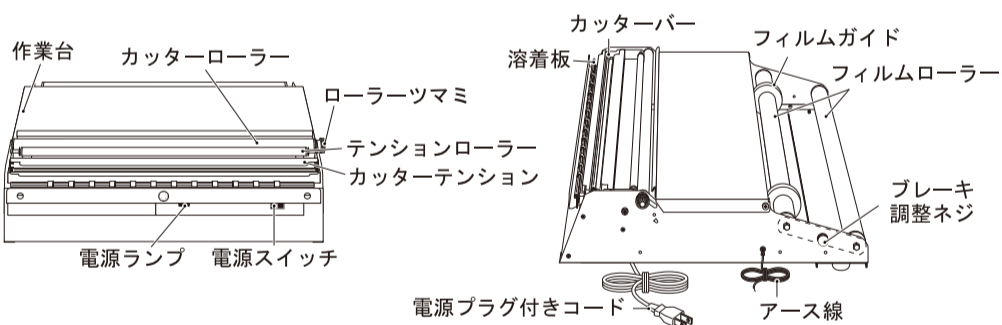


A R C 株式会社 〒492-8502 愛知県稲沢市陸田一里山町 53 番地
TEL 0587-21-2231 URL <http://www.arc.jp>
製品や使用方法の動画などは、ホームページで公開されています。

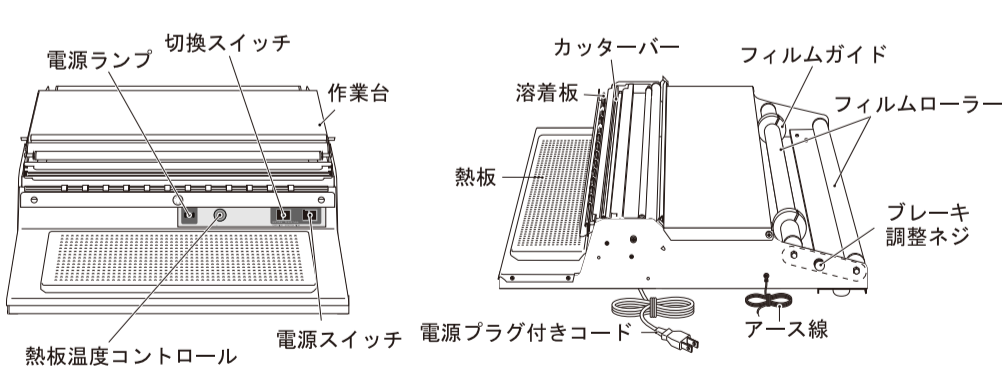
● お買い上げの商品と取扱説明書に記載しているイラストが異なる場合があります。

各部のなまえ

● OPP wrapper S7



● OPP wrapper W7



仕様

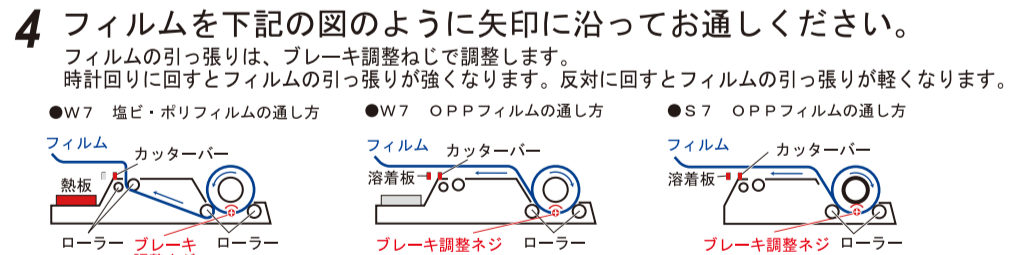
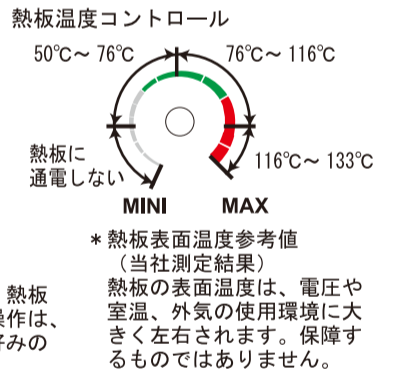
型名	OPP WRAPPER S7	OPP WRAPPER W7
フィルム	幅最大 400mmまで	幅最大 400mmまで
①塩ビ・ポリ	最小径 80φ～最大径 160φ	最小径 80φ～最大径 160φ
②OPP	(①1,000m巻き対応、②500m巻き対応)	(①1,000m巻き対応、②500m巻き対応)
電源電圧および周波数	交流 100V	50/60Hz
消費電力	156W	①71W～226W ②156W
外形寸法 幅×奥行×高さ (約cm)	50×47×13.5	50×60×13.5
製品寿命 10年	1日12時間連続使用の想定に基づく。製品を保証する期間ではありません。	

この製品は、日本国内交流 100V 専用で設計されています。電源電圧および周波数が異なる外国では使用できません。また、アフターサービスもできません。This product is designed exclusively for Japan's AC 100V. In foreign countries where power supply voltage and frequency are different In addition, after-sales service is also not possible.

使い方

略表記 「S7」=OPP WRAPPER S7 「W7」=OPP WRAPPER W7

- 1** 差し込みプラグをコンセントに差し込む。
- 2** 電源スイッチを入れます。
S7/電源ランプが点灯し、カッターバーと溶着板に熱が入ります。
W7/電源ランプが点灯します。
- 3** W7は、切換スイッチを操作します。
【OPPフィルム】 カッターバーと溶着板に熱が入ります。
【塩ビ・ポリフィルム】 カッターバーに熱が入り、熱板が使用できます。熱板の操作は、熱板温度コントロールで好みの温度に調整する。
- 4** フィルムを下記の図のように矢印に沿ってお通しください。
フィルムの引っ張りは、ブレーキ調整ねじで調整します。時計回りに回すとフィルムの引っ張りが強くなります。反対に回すとフィルムの引っ張りが弱くなります。
- 5** フィルムのカットおよび溶着



- 6** 使用し終わったら、必ず電源を切りましょう!
- 7** 1日の仕事が終わったときや長期間使用しないときは、差し込みプラグをコンセントから抜きましょう!

● お買い上げの商品と取扱説明書に記載しているイラストが異なる場合があります。

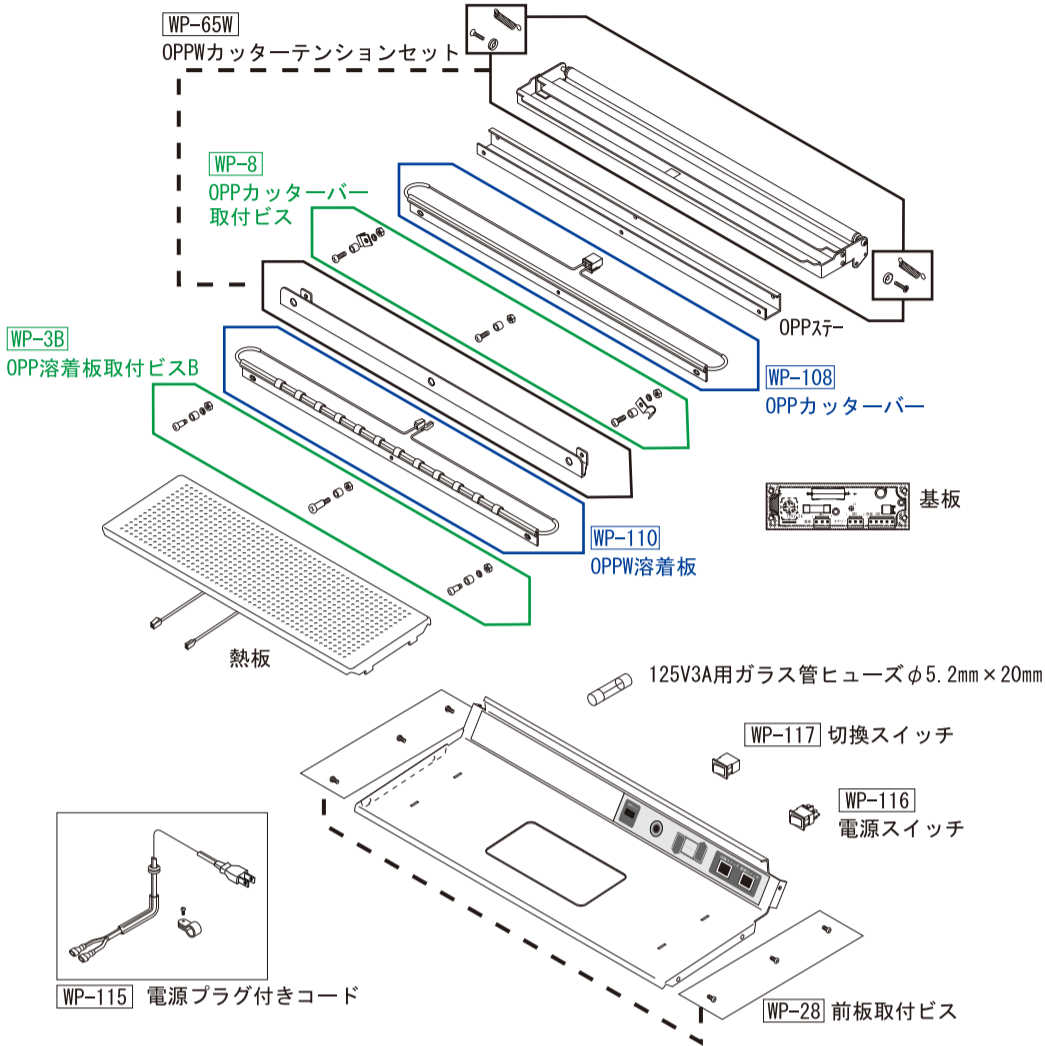
部品の交換・購入について

- 損傷した場合は、新しい部品と交換（有料）してください。
- お買い求めの際には製品の型名および部品名をご確認のうえ、お買い上げの販売店でお願いします。
- 部品の交換は、お買い上げの販売店でもご依頼して頂ければ承ります。

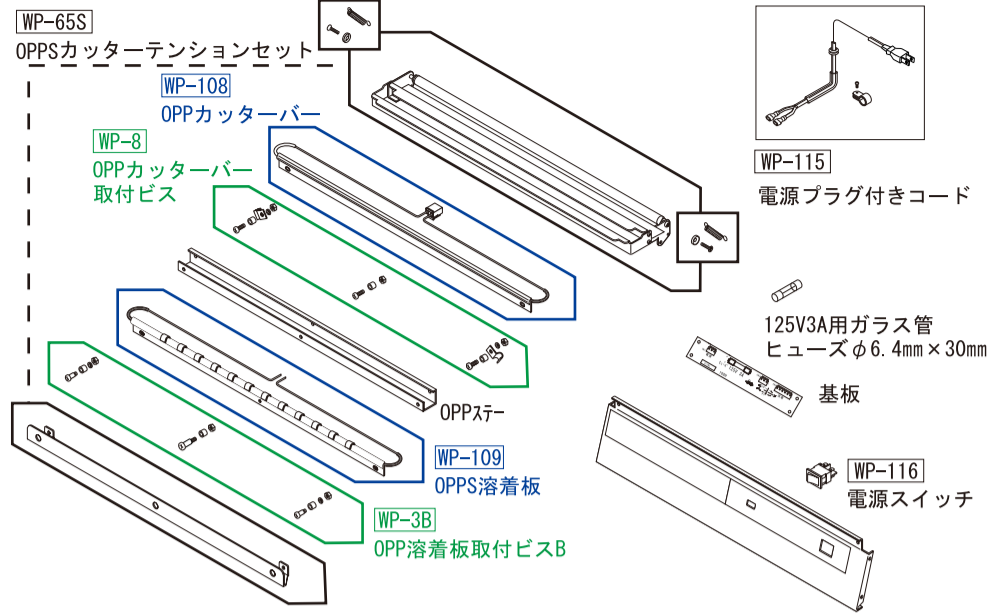
＜補修用性能部品について＞

- 補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年間補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。社会情勢、経済状況などで7年間を待たずに打ち切られる場合もございますので予めご了承のほどお願い申し上げます。
- 製造打ち切り後、7年を越えている製品は、修理できる部品がありましたらご要望により有料修理いたします。

● OPP wrapper W7



● OPP wrapper S7



お手入れ

ご使用ごとに必ずお手入れをしてください。汚れをそのまま放置しておくと、焼きついてとれにくくなります。

お手入れ（清掃）の際は、必ず電源スイッチを切り、差し込みプラグをコンセントから抜き、カッターバーや溶着板、熱板以外のお手入れは、製品が十分に冷めてから行ってください。

清掃する際は、次の物を使わないでください。傷が付いたり、色が変色したり、色や塗装が剥がれたりします。または、故障の原因になります。ナイフや包丁など鋭利な刃物や金属物などで本機をこすらない。研磨入り洗剤やみがき粉、たわしやスポンジなど本機を傷つけるおそれがあるものは使用しない。台所用中性洗剤以外のもの（塩素系などのアルカリ性洗剤、酸性洗剤など）、シンナー、ベンジン、漂白剤などは使用しない。

- カッターバーや溶着板、熱板の表面は、あたたかい間によくしぼったふきんやフィルムのカスや汚れをふきとってください。
* やけどのおそれがあるので、カッターバーや熱板に直接ふれないように！
- 本体は、よくしぼったふきんで拭いてください。
汚れが落ちにくいときは、薄めた台所用中性洗剤を含ませたやわらかい布で拭いた後、洗剤分が残らないようにかたくしぼった布などで水拭きしてください。
- 差し込みプラグのほこりを定期的に取り除いてください。
ほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり火災の原因になります。

故障の原因と対策

故障かなと思ったら、下記の表で症状を確かめてください。また、これらの処置をしても直らない場合やこの表以外の症状が起きた場合、販売店にご相談ください。

電源ランプが点灯しない

- ① 差し込みプラグがコンセントに差し込まれていない。もしくは抜けている。
→ 差し込みプラグをコンセントの根元まで正しく差し込む。
- ② 基板にコネクタが差し込まれていない。もしくは抜けている。または、コネクタに端子が差し込まれていない。もしくは抜けている。間違えて差し込まれている。
→ コネクタに端子を正しく差し込み、基板にコネクタを差し込む。
- ③ 差し込みプラグの刃部分に変形していたり、電源コードの破損している。
コードを押さえたり、曲げたりすると電源ランプがつかなくなる症状がある。
→ 直ちに使用を止め、販売店に点検をご相談する。
- ④ 電源スイッチの故障。例、ON/OFFの切り替えができない。切り替えが重いなどの症状がある。
→ 直ちに使用を止め、販売店に点検をご相談する。
- ⑤ ヒューズの故障。電気を入れてもカッターバーや溶着板、熱板に熱が入らない。
→ ヒューズを交換する。

カッターバーや溶着板に熱が入らない

- ① 基板にコネクタが差し込まれていない。もしくは抜けている。または、コネクタに端子が差し込まれていない。もしくは抜けている。間違えて差し込まれている。
→ コネクタに端子を正しく差し込み、基板にコネクタを差し込む。
- ② カッターバーや溶着板のヒーターコードまたは、リード線が断線している。
→ 新しいものに取り換える。

熱板に熱が入らない

- ① 基板にコネクタが差し込まれていない。もしくは抜けている。または、コネクタに端子が差し込まれていない。もしくは抜けている。間違えて差し込まれている。
→ コネクタに端子を正しく差し込み、基板にコネクタを差し込む。
- ② 熱板のヒーターコードまたは、リード線が断線している。
→ 販売店に点検をご相談する。
- ③ 熱板温度コントロールをMAXにし、しばらく置いていても熱板が温まらない。
→ 基板の故障が疑われます。直ちに使用を止め、販売店に点検をご相談する。
* 逆に熱板温度コントロールをMINIにし、しばらく置いていても熱板が温まったまま温度が下がらない症状も基板の故障が疑われます。直ちに使用を止め、販売店に点検をご相談する。

フィルムの引き出しが重い

- ① フィルムを間違えて通している。
→ 本書『使い方.4』のようにフィルムを通す。
- ② ローラーや軸受け（シャフト・ネジなど）にフィルムのカスや異物が付着している。
→ カスや異物を取り除く。
- ③ ローラーや軸受け（シャフト・ネジなど）に変形や傷がある。
→ ローラーや軸受けを取り替える。
- ④ ブレーキ板がフィルムローラーを押さえて動きが重くなっている。
→ ブレーキ調整ネジを緩めて、引き出しを軽く調整する。
- ⑤ フィルムガイドでフィルムを押さえすぎている。
→ フィルムガイドをフィルムから少し外す。
- ⑥ 規格の最大径 160φ（1000m巻き対応）より大きいフィルムを使用している。
→ 規格のフィルムを使用する。規格より外径が大きいフィルムは落下する恐れがあります。

フィルムの引き出しが軽い

- ① ブレーキ板がフィルムローラーを押さえていない。 → ブレーキ調整ネジを締めて、引き出しを重く調整する。
- ② ブレーキ調整ネジを強く締めすぎていてブレーキ板が変形し、フィルムローラーを十分に押さえていない。
→ ブレーキ調整ネジを緩めて、引き出しを調整する。ブレーキ板の変形が直らなければ取り換える。

フィルムがカッターバーで切れにくい

- ① カッターバーの表面にフィルムのカスや汚れなどが付着している。 → 表面から付着物を取り除く。
- ② カッターバーの表面にあるフッ素被膜が剥がれている。 → 新しいものに取り換える。
- ③ 機器本体に冷たい外気が吹き込んでいる。 → 機器本体に外気が入るのを遮断する。
- ④ タコ足配線や他の器具と併用して使用している。 → 定格15A以上のコンセントで単独で使う。
- ⑤ 電圧が低い → 使用場所を変える。

溶着板や熱板でフィルムの接着がくっつかない

- ① 溶着板や熱板の表面にフィルムのカスや汚れなどが付着している。 → 表面から付着物を取り除く。
- ② 溶着板や熱板の表面にあるフッ素被膜が剥がれている。 → 溶着板・新しいものに取り換える。
熱板・・・販売店に点検をご相談する。
- ③ 熱板の温度が低い。 (1) 熱板が十分に温まっていない → しばらく時間を置く。
(2) 温度コントロールの設定値が低い → 温度コントロールを高めに調整する。
- ④ 溶着板の温度が低い。 (1) 溶着板での接着時間が短い → 接着時間を長くする。
(2) 電圧が低い → 使用場所を変える。
- ⑤ 機器本体に冷たい外気が吹き込んでいる。 → 機器本体に外気が入るのを遮断する。
- ⑥ タコ足配線や他の器具と併用して使用している。 → 定格15A以上のコンセントで単独で使う。

その他

- ① カッターバーや溶着板から煙が出たり、においがする。
→ 使いはじめ（カッターバーや溶着板の交換を含む）のうちは、煙が出たり、においがすることもありますが、ご使用とともに少なくなります。またヒーターコードの被膜に焦げ目が付くこともあります。
- ② 作業台ローラーとテンションローラーの同じ位置に黒い線のような汚れがある。
→ ローラー同士が擦れることによって、まれにショートが起き、跡が残る場合があります。汚れは取り除いてください。
- ③ ローラーの表面に色むらがある。
→ 使用上の品質に支障はありません。
- ④ ローラーの表面が傷つき、フィルムを引っ張ると裂ける。
→ 屋外や青果などの土埃やチリがローラーやフィルムにつきやすい環境では、ローラーの表面に傷が付きやすいです。清掃してからご使用ください。

● 基板の配線

